患者さんの一番近くにいる存在！
「看護師」

看護師は、疾患、治療、生活支援、連携、制度等、オールマイティにかかわる職種です。

すべてを完全にしなければと思っていませんか？
強みを持つ職種につなげる架け橋と、患者さんの気持ちを代弁する翻訳者としての役割でも十分な活動です！

看護師はそれぞれの立ち位置で、活躍できる機会をたくさん見つけられる職種です！

管理者

外来

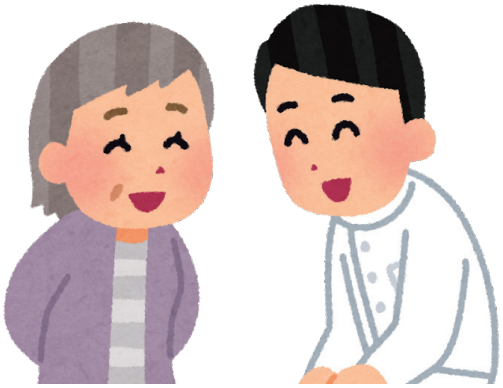
病棟

それぞれが自分の立場でできることをまずは考えてみましょう！！

看護師の強みと肝Co活動は相性がいい

「聞かれたことにすべて答えなければ失格」なんて思っていませんか？私たちは「コーディネーター」であり、**患者さんのために架け橋となる存在**です。わからないことは、適切な専門職につなげることが重要です。連携することで自分の知識も増えていき、次に聞かれたときには答えられるようになっているかもしれません。**まずは一歩動くことが成長につながっていきますよ！**

看護師も肝Coも患者さんの気持ちや疑問、ニーズを汲み、適切な場所につなげる架け橋の役割



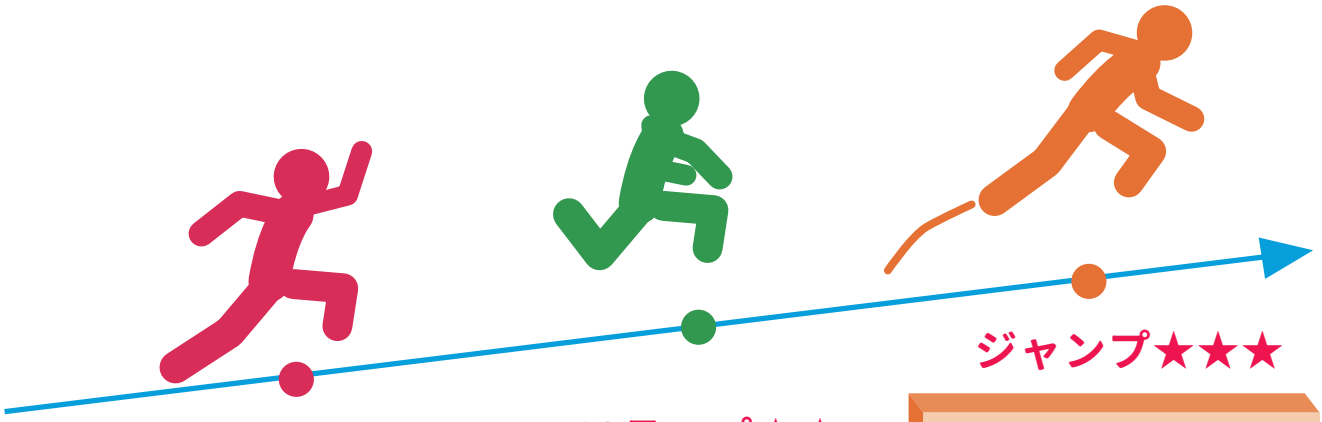
看護師が肝Coになったきっかけ

肝臓専門の部署に配属され、知識の取得やアップデートをするために肝Coの研修を受けたという方が多いようです。
得られた知識は自分の付加価値となり、患者さんにきちんと説明ができるという自信につながります。きっかけは何であれ、医療者として向上心をもってかかわることが私たちの使命です。

患者さんやスタッフから存在を認められ、頼りにされるとモチベーションが上がりますよね！

肝炎ウイルス検査からつながる肝Co活動

看護師は業務中に数多くの患者さんのカルテを目にする職種です。カルテに記載されている肝炎ウイルス検査をチェックする習慣を付ければ、そこから肝Co活動を広げていくことができます！



ホップ★

肝炎ウイルス検査の結果を確認

- カルテを見るときは必ず肝炎ウイルス検査を確認！
- 化学療法や免疫抑制剤の治療を受ける前は、必ずHBV再活性化リスクのチェックを！

ステップ★★

肝炎ウイルス検査の結果通知

- 陰性でも必ず本人に伝える
- 陽性者は必ず状況を把握し、受診が必要かを判断する
- 必ず肝臓専門医へつなげる

ジャンプ★★★

他の診療科や専門職へ連携

- 外来、病棟間、化学療法室、透析室等と連携し、継続的にフォローする
- 多職種との連携を図ることで患者さんに寄り添ったケアにつなげる

こんな活動も！

採血結果を患者さんにお知らせしたかどうか、情報を共有するために……

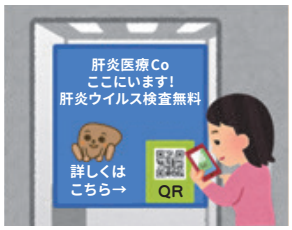
- ☑ 検査結果説明後に患者さんにサインしていただき、スキャンしてカルテに保存しておく。
- ☑ 検査当日に検査結果が出ないときは次回外来時にお伝えすることをカルテの伝達欄に記載する。

看護師の肝Co仲間を増やそう！

ホップ★

院内にポスター等を掲示することが、仲間づくりに！

院内の目に付くところ（エレベーター等）に肝Coのポスターを掲示しておくと、患者さんだけでなく、医療職への啓発にもつながります。
肝Coの活動に興味を持ってもらえたら仲間が増えるかもしれません。



ステップ★★

自分が活動する姿を見せることが、仲間を呼ぶ！

自分が肝Coとして活動している姿、それが周囲へのPRになります。
活動を見て同僚が肝Coの研修を受けてくれるかも？
また、啓発活動を通じて院内だけではなく院外にも仲間ができ、
相談ができたり、活動の励みにもなります。
市民公開講座などの地域のイベントに参加することも
立派な活動ですよ！

ジャンプ★★★

上司にも仲間になってもらおう！

肝Co活動が勤務先で認められていれば、他のスタッフから頼りにされ、患者さんにかかわるきっかけを持つことができます。
しかし、肝Coの活動は、診療報酬もつかず、あまり認知されていない場合もあります。肝Co活動がまだ認められていない場合は、**まずは直属の上司に肝Co活動を知ってもらいましょう。**活動が幅広いためにすべてを伝えるのは難しいかもしれませんが、上司に自分が行っている活動や考え、できることをアピールしてみましょう。

肝Co活動を理解してもらうための**一番の近道は上司に肝Coの研修を受けていただく**ことかもしれません。『もしもコメディカルが肝炎医療Coだったら』の本をそっと渡して活動を知ってもらうことも一案です。

患者さんのファーストタッチは
「外来看護師」

患者さんが何を求めているかを察知して
コーディネートします

ファーストタッチ！で
アセスメント力を発揮

**多くの患者さんと接する外来だからこそ
チャンスはたくさんある！！**

患者さんとファーストタッチを取れるのは外来看護師の強み。患者さんの状態をアセスメントし、なにが問題か、何を求めているのかを把握し、次につなげる大事な役目です。

＼外来看護師ってこんなお仕事です！／

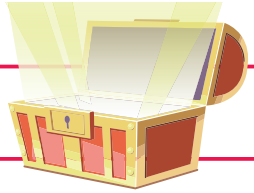
❶**アセスメント**…問診、現疾患、既往歴、バイタルサイン、身体観察、処置等を通じて、患者さんの身体状態や気持ち、現在の問題点等のアセスメントを行います。
❷**診療の補助**…医師の指示に基づく採血、注射、創処置等の診療補助を行います。
❸**療養支援や生活支援とコーディネート**…自宅で生活を行う上での疾患の注意点、服薬管理、経済的なこと、制度など幅広く生活に応じた情報提供と専門部署へのコーディネートを行います。

外来では多くの患者さんと接する機会はありますが、時間は限られており、多忙な業務の中で多くの活動ができるわけではありません。だからこそ業務の延長線上で自分ができることを少しずつ行えばよいのです！

はじめの第一歩！

見いだせ!!

問診は情報の宝箱!!



問診は話すきっかけになり、患者さんが求めていることを知ることができる絶好の機会です！

母が肝炎なんです。

先ほどの診察で分からないことや疑問点などはありますか？

お母さまが肝炎なんですね…もしよかったら、念のため検査をしてみませんか？

声をかける勇気
～自分中心から患者さん中心の考え方へ～

患者さんへの声かけに迷いが出ることはありませんか？特に経験が浅い頃は声をかけづらいですよね。そんなときには「自分が患者さんの役に立てる切り札を持っているとしたら…」と考えてみてください。声をかけづらいと思うのは自分中心の考え。医療者として患者さんのためになれるよう、患者さん中心に考えれば、声をかける勇気が湧いてくるのではないでしょうか。

HCV抗体陽性だけど、精密検査や治療を受けているのかな…？
声かけしたいけど、迷惑がられるかもしれないな…？
…でも、私の声かけによって、将来の肝がんを防げるかもしれない！

ホップ★

わかりやすい言葉で補足説明をする

診察の中で不明なこと、不安なこと、医師に聞けなかったことがないかを確認します。専門用語を使わず、難しい内容をかみ砕いて説明することも重要です。

カルテを見る時は肝炎ウイルス検査歴のチェックを！

担当の患者さんのカルテを見るときは、必ず肝炎ウイルス検査を確認する習慣をつけてみませんか？特に肝臓専門外の診療科の患者さんは要チェック！

外来治療では、助成制度や薬の説明も重要！

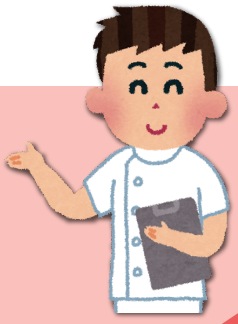
薬剤や助成制度などを説明します。自分が制度について理解が不十分な時は、制度に詳しいコーディネーターにつなげましょう。

定期検査の説明は繰り返しが必要!!

肝疾患は定期検査が重要です。必要性を繰り返し説明しましょう。

ポイント!!

C型肝炎の治療が終わると同時に外来通院をやめてしまうケースもあります。肝がんを発症するリスクがあることを治療前から説明し、治療後も定期的な外来での腹部超音波検査、血液検査が必要であることを説明しましょう。



ステップ★★

家族への対応も重要です！

肝炎ウイルス検査で陽性だった患者さんの家族に、肝炎ウイルス検査の受検の有無、検査結果を確認しましょう。もし受けていない場合は、必ず検査を勧めましょう。また、感染経路について説明することも重要ですが、その際は偏見・差別が起こらないような説明の仕方が重要です。

拾い上げでの重要な役目も

検査部から抽出された陽性者のカルテを確認し、専門医を受診しているのか、治療をしているのか等を確認し、必要時は適切な場所へつなげます。

再活性化のリスクをチェック

外来で化学療法を行う患者さんでは、B型肝炎の再活性化のリスクを確認します。特に肝臓以外の科では肝Coが活躍できる場です。

ジャンプ★★★

他部門との連携が重要です！

外来の他の診療科、化学療法室、病棟、他部門と連携し患者さんのフォローを行います。病棟から外来への情報提供があれば、退院後に外来でもこまめに状況を把握できます。

多くの診療科と接する外来だからこそ、専門外にもアプローチできます

外来には多くの診療科があり、たくさんの患者さんと日々かかわるため、肝Co活動のきっかけは数多くあります。
特に、術前に検査を行われている科では、肝炎ウイルスの検査結果が伝えられずそのままになっている事例も少なくありません。
そのような肝臓専門外でのアプローチができるのも外来看護師の強みです。しかし、マンパワー不足に悩むこともあるでしょう。専門外の科の待ち合い室に啓発のポスターやパンフレットを置くだけでも活動です。また、**肝Coの仲間を増やしたり、肝Coでなくても説明できる資材を用意する**ことも、活動の一つです。

目くばり、気くばり、心くばり

患者さんに、薬・病気・治療について説明する際に気くばりできていますか？

外来は多くの患者さんがいて、スペースの確保が難しいもの。ついつい、患者さんが座っているスペースで説明を行いがちです。肝炎であることを人に聞かれたくないと思っている方も多くいます。周りの環境に配慮したり、言語化しないようにしたり、気くばりすることは重要です。「家族だから大丈夫」と考えてはいけません。家族に聞かれたくないこともあります。

入院患者さんの日常に一番近い存在
「病棟看護師」

患者さんに提供している医療や
日常生活を把握して、トータル
コーディネートできます！

患者さんだけでなく、
家族、地域、多職種と
かかわりを持つ連携の
かなめの存在です！

こんな時は頼って下さい!!

- この患者さんはどんな人？
- 生活面で困っていることは？
- 家族背景は？

いつでも連携を！！

＼病棟看護師ってこんなお仕事です！／

❶**身体のアセスメント**…バイタルサイン、身体観察、処置、清潔ケア等を通じて、患者さんの身体状態のアセスメントを行います。

❷**診療の補助**…医師の指示に基づく採血、注射、創処置等の診療補助を行います。

❸**退院後の生活支援とコーディネート**…退院後の生活はとても重要ですから、入院時から患者さんと一緒に考えていきます。また、栄養士、理学療法士、ソーシャルワーカーや、地域のケアマネジャー、保健師、民生委員等と連携したり、話し合いの機会を作る中心的な役割（コーディネート機能）を果たします。

❹**肝臓病教室等の啓発活動**…患者さんの生活に即した説明を心がけています。

病棟看護師の肝Co 活動事例

はじめの第一歩!

挨拶と自己紹介から患者さんが安心できる話しやすい環境を作る

患者さんに「自分を覚えてくれている」「自分の話を聞いてもらえる」と思っていただけると、安心に繋がり信頼関係を構築しやすくなります。

ポイント!

「肝疾患は繰り返し入院が必要になることが多く、完治したよと言いにくい病気でもあります。また入院か…と思っている患者さんに声をかけるときは、患者さんが負担を感じない環境づくりを心がけています」

○○さん、お身体のケアに来られましたね。

覚えてて くれたんですね、心強いです。

患者さんが安心できる環境づくりのポイント

「話のきっかけは、挨拶と自己紹介です。担当の看護師だとわかると安心されることも多く、親近感を持ってもらえると思います。
その日だけの担当でもきちんと伝えることが大事ですね!」

「大事なことを聞くときは、周りの環境に配慮します。病気のことや経済的なことを聞くときは、場所を変えたりしています。例えば、いきなり核心を突くような質問をするのはNGですね」

「感染症であることを周囲に知られたくない人もいます。B型肝炎、C型肝炎という言葉の捉え方は、患者さんと医療者では違います。そういったことに配慮できるのは肝Coの強みかもしれませんね」

病棟看護師の肝Co 活動事例

ホップ★

入院・外来患者の肝炎ウイルス検査結果の確認

担当患者さんの肝炎ウイルス検査の結果は必ず確認し、適切な受検・受診・受療につながっているか確認します。肝疾患専門以外の病棟でも、術前の肝炎ウイルス検査結果が陽性なら肝臓専門医につなげ、陰性でも必ず説明します。外来で肝炎ウイルス検査を行っている場合、検査結果の説明をされていない可能性もあります。入院している期間だからこそしっかり説明をする時間を設けることができます。

定期検査の必要性について説明する

C型肝炎の治療でウイルスを排除しても肝がん発症のリスクはあります。定期的な検査（採血と腹部超音波検査等）を受ける必要性を治療前から説明することが重要です。

免疫抑制剤、抗がん剤の治療を行う方の肝炎ウイルス検査を治療前に必ず確認する

B型肝炎ウイルス検査が行われているか確認し、検査されていない場合は医師に確認しましょう！また、治療中や治療後のウイルス量の変化にも注意しましょう。

助成制度が利用できる可能性がある人に窓口を紹介する

詳しい助成制度がわからない場合は、説明できる人につなげましょう。
まずは、利用できる可能性のある制度があることを伝えることが重要です。

ステップ★★

患者さんの入院生活でのお困りごと、退院後の生活などの相談

入院時から退院を見据えて問題解決に向け支援します。外来との連携や、地域との連携も重要であり、そのコーディネート役を担います。

肝炎ウイルス検査陽性者を専門医へつなげる

肝疾患が専門でない病棟の場合は特に肝Coの研修を受けた看護師の活躍の場です。術前検査などで肝炎ウイルス検査が陽性であれば肝疾患専門医の受診の有無を確認し、未受診ならば必ず肝臓専門医へつなげましょう。

ジャンプ★★★

肝炎ウイルス検査陽性者のフォローアップ

過去肝炎の既往がある方が定期検査を中断していないかを確認します。

院内スタッフ向けの勉強会の開催

肝疾患専門病棟以外のスタッフは、肝炎ウイルス検査の詳細を理解していない場合がよくあります。陽性の場合、一度は肝臓専門医につなぐことが重要であることを理解してもらいましょう。

肝臓病教室での講義

多職種でチームを構成し、肝臓病教室を実施します。

病棟看護師の最大の強み『コーディネート力』を十分に活用しよう

病棟看護師は、患者さんと長い時間を共有するため、1日の生活パターン、個性、好みなど、個々の患者さんの情報を深く知ることができます。だからこそ色々な問題や課題に気づくことができます。
看護師はオールマイティーに患者さんに関われる職種ではありますが、自分だけで抱え込むのではなく、それを他の職種にも伝えて、より良いケアなどにつなげていくことが求められています。

看護師は患者さんの本音や願いを多職種に知らせる翻訳者です！

特に、肝疾患をお持ちの患者さんは入退院を繰り返すことが多く、入院と地域での生活を包括的に支援することが大切です。肝Coの研修を受けた看護師は、院内・院外（地域）をつなぐ架け橋としても活躍することができます。

肝臓病教室での看護師の役割って？

多職種で連携して行う肝臓病教室。医師は診断や治療、薬剤師は薬物療法、管理栄養士は栄養療法など、それぞれの専門性を活かしそれぞれの役割を担います。では看護師はどんな役割を担うのでしょうか？
看護師は患者さん個々の日常生活に合わせて生活支援を行うことができますよね。それだけではなく、患者さんに専門的な情報を提供し、それを患者さんの日常生活にあわせるための相談やサポートを行うことができます。患者さんの理解度を確認し、目標を一緒に立てて、治療や退院後の生活に不安が残らないようにサポートしましょう。そんな一番身近で重要な役割を担っています！

『お困りごとはまず看護師に！』とお伝えし、窓口を知らせることが患者さんの安心感につながります。

みんなの相談役
「看護管理者」

活動しやすい体制づくりは
管理者の最大の活動

管理者であり、肝Coでもあるからこそ、部下の思いがわかる

部下が肝Coとして活躍することは、部署の患者支援の質の向上につながります。また、スタッフの自己学習の促進や、キャリア形成にも効果的です。肝Coとして活動できる環境を整えることこそ管理者としてできる活動なのかもしれません。

自分が実際に体験した経験だからこそ部下に伝わる

自分も上司の理解があったので活動できていました。
だからこそ今、そういう上司でありたいと思っています。

やる気があるスタッフはその場所で積極的に活動すべきであり、やりたいことが意欲につながります。
だからこそ、スタッフがやりたいことをサポートしたいです。

自分が経験して、やりがいを感じたこと、一生懸命に取り組めたことを伝えたり、自分が活動している姿を部下に見せることで、活動の輪は広がります。今では、スタッフが率先して活動を行っています。

管理者の肝Co 活動事例

はじめの第一歩！

部下の活動を認めよう!!

上司に認められることは、部下のやる気につながります。
肝Coの活動は日常業務の延長線上で行っているため、部下も自分の活動に対して、活動しているという意識が低い傾向にあります。そんな時「あなたは頑張ってるね」「それも肝Co活動だね」といった一言が、部下のモチベーションの向上につながり、継続した活動につながっていくはずです。
また、活動ができていない肝Coを責めるのではなく、焦らず活動のきっかけを探すサポートができたら最高の上司ですね。

こんな活動も！

ホップ★

部下の話を聞く

部下が何を悩んでいるのか？肝Coの研修を受けたものの活動ができていない部下には、一緒に活動を考えることも重要！
自分の経験を伝えることも、部下の力になります。

部下に肝Co取得をすすめる

やる気のあるスタッフにはキャリアアップのために
肝Coの研修を勧めてみましょう。

ステップ★★

肝臓専門医、肝疾患センターや他部署等と連携を取り体制づくりを進める

他部署の管理者に肝Coという存在や役割、活動を共有することで肝Co活動が行いやすい環境を整えることができます。

ジャンプ★★★

院内でのチームをつくり、院内での活動を広めていく

肝疾患に関する院内でのチームの立ち上げや、肝臓病教室の開催は、多職種の「顔が見える関係」が構築され、連携や活動の幅が広がります。

もし肝Coの研修を受けていないスタッフがいれば、ぜひすすめてください。肝Co活動を知り、一緒に活動を考え、輪を広げる……管理者にはそんな役割も求められているかもしれません。

管理者だからできる連携・組織構築のコツ

肝臓専門医、肝疾患センター等と連携をはかり、院内体制を作る

肝Coの活動促進のためには、まずは院内での活動を認められることが重要です。
師長といえども院内体制を構築することはハードルが高いです。
そこで、肝臓専門医と協力をして進めていくことがカギとなります。

他部署の管理者に肝Coの情報を提供する

手術件数が多い部署では、肝炎ウイルス検査を行っていても結果を伝えられずそのままになっていることも少なくありません。管理者同士の連携によって、専門外の部署にも肝Coを育成することにつながり、陽性者の拾い上げや、肝臓専門医への受診につなげることができます。

上司との連携

看護部の部長などに肝Coの活動を知っていただくことはとても重要なことです。単に肝Co活動の説明ではなく、肝Coを活用することによって、どのような結果が生じるのか等、メリットを伝えることで活動が認められ、部下の活動しやすい環境づくりが整います。

肝臓病教室の立ち上げは多職種連携のきっかけに！

肝臓病教室を通じて管理栄養士、理学療法士などの多職種との連携が構築され、活動の幅が広がります。

慢性疾患看護専門看護師（CNS）

肝疾患は継続した治療や検査が必要です。特に脂肪性肝疾患などの疾患は、慢性疾患と大きく関与しており、継続した治療やサポートが必要です。慢性疾患を専門とするCNSなどと連携できる体制を整えることで活動の幅も広がります。